

防衛省政策会議 議事要旨

日時：平成21年11月12日（木）8時30～9時45分

場所：参議院議員会館 第1会議室

防衛省出席者：榛葉防衛副大臣（副大臣会議終了後）、長島防衛大臣政務官、
楠田防衛大臣政務官

議題：①行政刷新会議にかかる防衛省の対応について

②北朝鮮艦艇と韓国艦艇との間の銃撃について

③沖縄におけるYナンバー車両が関係すると認められる死亡ひき逃げ事
件について

④護衛艦「くらま」と貨物船との衝突について

⑤これまでの日米防衛協力に関する取組について

楠田政務官の司会により進行。

1. 案件①から④について、長島政務官から説明。引き続き、案件⑤にかかる
事実関係について日米防衛協力課長から説明。

2. 意見交換

【行政刷新会議にかかる防衛省の対応について】

- 防衛分野は、他の分野とは違い、きちんとした政策的な議論が必要。今や
っている仕分け作業のように、1時間で決めてしまうというのはいかがなもの
か。
- 特に、装備品の取得に関しては、熟練工や中小の企業を含む防衛基盤の維
持等の観点からも継続性が重要。このような観点も踏まえ、事業の当否につい
ては政治判断をすべき。
- 在日米軍労務費の問題は、事業仕分けで行うような話ではなく、労使間で
協議すべき問題。在日米軍基地労働者の権利にも関わるので、慎重に取り扱
うべき。

（長島政務官）

事業仕分けの対象項目の中には、防衛計画の大綱、防衛省改革、駐留軍経費
負担に関する特別協定等、時間をかけて見直すべき事項と関連するものも含ま
れる。御意見については仕分けチームにも伝えたい。

（榛葉副大臣）

防衛省の事業について短期間で仕分けを行うこと、防衛問題がそもそも仕
分けに馴染むのかということには、不安や疑問はなくもないが、他方、新政
権として危機的な国家財政に立ち向かうこと、国民に対して情報を開示して

御理解を得ることも重要。

- 防衛施設周辺の住宅防音事業について、
 - ・ 前政権時代のように場当たりの行うのではなく、どれだけの範囲をどれだけの期間で行うのか、全体像とスケジュールを示すべき。
 - ・ 戸数を確保するために工事の単価を削っていくようなやり方はいかなるものか。防音効果が落ちるのではないか。
 - ・ 防衛施設周辺整備協会に委託している防音工事の事務費では、例えば、集合住宅で実際には数戸分しか調査していないにもかかわらず、規格が同じだからということで、全戸分の委託料を取っているような場合があり、適正化すべき。

(榛葉副大臣)

こういった建設的な御意見は、まとめて長島政務官に提出してほしい。

- ミサイル防衛は事業仕分けの対象に入っているのか。

(榛葉副大臣)

個別具体的にミサイル防衛が仕分け対象項目に明示されているわけではないが、装備品調達のある方に関する全般的議論の中で取り扱われると思料。また、ミサイル防衛については、防衛計画の大綱や平成22年度予算の準拠となる基本方針にかかる議論の中でも論じられることになる見込み。

- 事業仕分けは未だ作業中なので、防衛省政策会議で論じても仕方ない。政策会議では、「そもそも民主党は自衛隊をどう考えるのか」といった議題を取り扱うのも一案ではないか。
- 特に選挙区に基地を抱える議員にとっては事業仕分けは大きな問題。防衛省政策会議で取り扱ってもらえて有り難い。

(榛葉副大臣)

国会議員各位に、事業仕分けについての関心を持ってもらい、御意見を伺うというプロセスは重要であるので、防衛省政策会議で本議題を取り扱うこととした。各位からは建設的な御意見を出していただきたい。

【Yナンバー車両が関係すると認められる死亡ひき逃げ事件】

- 地位協定の改定に向けてしっかりと取り組んでもらいたい。
- 米兵が我が国で事故を起こした場合、被害者にはどのように補償されるのか。また、自賠責保険や任意保険に入っているのか。

(地方協力企画課長)

(地位協定第18条による補償について説明の後、) 一般論として、自賠責保険には入っていると思われる。任意保険については、SACO最終報告では加

入させることになっている。しかし、本件については実際に加入しているかどうかは確認できていない。

【その他】

- 普天間基地移設問題について、総理大臣、防衛大臣、外務大臣の間で発言が食い違っているとされるが、この問題は時間をかけて議論すべき。

(長島政務官)

官邸主導で方向性を出していく必要がある。

- オバマ大統領が来日するが、何を話すのか。政府と与党は一体であるのだから、与党議員には会談結果を知らせるだけでなく、事前にきちんとした説明を行うべき。

- 2006年に合意された米軍再編のロードマップは、軍事のネットワーク化というネオコン時代の戦略の遺物。オバマ政権となった今、戦略の再定義が必要。

(榛葉副大臣)

これらの問題の議論のあり方について、外務省の政務3役とも話をして、詰めていきたい。

- 米軍再編交付金について、基地を受け入れた見返りに交付金を交付するような、アメとムチの仕組みは見直すべき。

(榛葉副大臣)

交付金が政府と地方自治体との間の不信感の元にならないよう、議論して参りたい。

- 日米安保のような大局的な問題と、個別の事業の当否のような細かな問題を、防衛省政策会議の1時間の枠で同じように議論するのは無理があるのではないか。もっと会議時間を確保するなり、分科会を設けるなり、会議の方法を検討すべき。また、使用する資料も出席の与党議員にポイントが分かり易いものにすべき。

(榛葉副大臣)

会議や資料のあり方については、見直せるところは見直したい。

- オランダやイギリスはイラク戦争の再検証を行っている。我が国も行うべき。

(以上)